

サイクルアンドライド方式の実態分析

名古屋工業大学 正員 伊豆原 浩二
 名古屋工業大学 学生員・佐々木 雅多加

1. はじめに

最近自転車が無公害で軽便かつ省エネルギー的交通手段として見直されてきているが、本文では特に、自転車と鉄道とを組み合わせて利用（これをサイクルアンドライド方式と呼ぶ）している人を対象にアンケート調査を試み、自転車利用の実態を分析した結果を報告する。

2. 調査概要

調査対象地域としては“自転車安全運転モデル都市”に指定された一宮市を取り上げた。調査方法は国鉄尾張一宮駅、名鉄新一宮駅周辺においてサイクルアンドライド方式をとっていると思われる自転車に調査票を配布し、後日郵送により回収方法をとった。期日は昭和49年10月24日、配布枚数は2297枚で回収枚数483枚（回収率21.0%）、うち有効回収枚数は478枚であった。調査内容は利用目的、利用回数、駐車の場所と時間、駅までの所要時間、バス路線および自動車との競合性、天候季節による利用の変化、危険度、および個人属性などである。

3. 集計結果

表-1 利用回数

週に	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	無回答
人数	14人	8	28	19	69	294	36	10
割合	2.9%	1.7	5.9	4.0	14.4	61.5	7.5	2.1

サイクルアンドライド方式利用の交通目的は通勤通学が448名で、全体の93.7%を

占めている。また利用回数は表-1に示すが、週6回が圧倒的に多く、5回以上利用者は83.4%となり、上記交通目的の通勤通学を考えれば当然の結果ともいえる。

駐車場所は表-2に示す。有料の自転車置き場が半強を占めており、調査用紙における要望の欄には無料の自転車置き場の充実を訴える声が多い。また道路上と空地広場を合わせると37.3%となるがこれは置き場の不備が要因であろう。

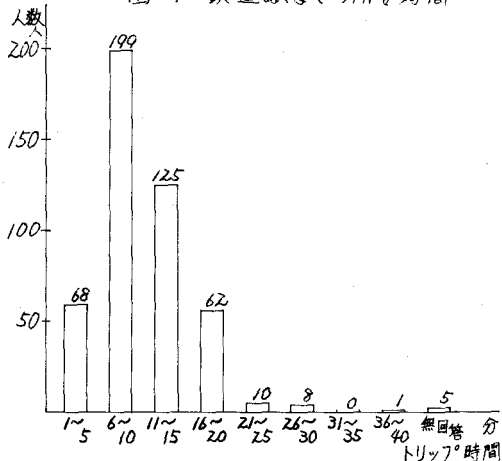
自宅から駅までの所要時間については図-1のような結果となり、6～10分が最も多く、20分以内が全体の95.0%にも達している。また平均所要時間は12.1分であった。次に利用した鉄道路駅が最寄りの駅と答えたのが82.6%占めたが、最寄りの駅でないと答えた人が16.9%もいる。これは一宮駅以外に特急が停車しないため、敢えて最寄りの駅を利用しないものと思われる。

次に雨の日の交通手段は表-3のような結果になり

表-2 駐車場所

駐車場所	人数	割合
1. 道路上	128人	26.8%
2. 無料の自転車置き場	130	27.2
3. 有料の自転車置き場	163	34.1
4. 空地・広場	50	10.5
5. その他	5	1.0
6. 無回答	2	0.4

図-1 鉄道路駅までの所要時間



、雨の日でも自転車を利用する
が38.3%もあり、自転車利用の
最も条件が悪いと思われる時で
も他の交通手段を使っていない
ことは注目値する。

表-3 雨の日の交通手段

交通手段	やはり自転車利用	バス利用	自動車利用	歩いて行く	雨の状態による	その他	無回答
人数	183人	111	56	105	10	6	7
割合	38.3%	23.2	11.7	22.0	2.1	1.3	1.5

この利用の変化を季節別に集計してみると表-4の
ようである。梅雨期にはやはりやや減るが55.4%を
占め、変わらないが33.7%となっていることは上記
雨の日の交通手段の項の比率とはほぼ同様の傾向を示
しているといえる。夏期では、変わらない69.2%、
増える24.9%となり、利用者がかなりの増加となる。
冬期では変わらない65.3%、やや減る24.5%、の順
となり、夏期の全く逆の傾向を示している。季節別
では梅雨期を除いて、利用の変化がないとする人が
6割を越えていることは、自転車利用の根強さを物
語っている。

次に個人属性についてみると、性別では男性が
70.1%、女性が28.9%であった。年齢別では図-2の
ような結果になり、年齢が増加するにしたがって自
転車利用者の割合が減少している。職業は表-5に示
すようになり、学生（
高校大学生）が全体の
44.3%を占めているが、
事務、技術、労務を合
わせると36.7%となり、
各層で自転車が利用さ
れていることがわかる。
4. おわりに

この調査と同じ調査
を岩倉、古知野の各駅
でも行なったが、現在
回収および集計中である。また紙面の都合上、質問項目全部につ
いての記載はできなかつたし、単純集計の結果のみであるが、当日には上記3駅による集計結果をも
まとめ発表したいと思っている。

表-4

季節	変化状態	人数	割合
梅雨期	1 増える	0人	0%
	2 変わらない	161	33.7
	3 やや減る	265	55.4
	4 全く利用しなくなる	40	8.4
	5 わからない	4	0.8
	6 無回答	8	1.7
夏期	1 増える	119	24.9
	2 変わらない	331	69.2
	3 やや減る	12	2.5
	4 全く利用しなくなる	4	0.8
	5 わからない	4	0.8
	6 無回答	8	1.7
冬期	1 増える	7	1.5
	2 変わらない	312	65.3
	3 やや減る	117	24.5
	4 全く利用しなくなる	18	3.8
	5 わからない	15	3.1
	6 無回答	9	1.9

図-2 年齢

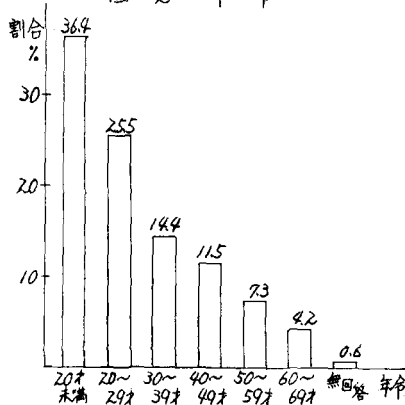


表-5 職業

職業	人数	割合
1. 役員(経営者)	5人	1.0%
2. 管理職(課長以上)	33	6.9
3. 事務職	93	19.5
4. 技術職	50	10.5
5. 労務職	32	6.7
6. 主婦	10	2.1
7. 大学生	114	23.8
8. 高校生	98	20.5
9. 無職	5	1.0
10. その他	24	5.0
11. 無回答	14	2.9